

東松島復興推進員だより(第8号)

～地を往きて走らず～

東松島市宮戸島の月浜海岸は、かつては多くの民宿が並び夏には多くの人達が海水浴に訪れていました。

海岸沿いにはシュロの木が立ち並び白い砂浜と目の前に広がる三陸の海はまるで異国のビーチに来たような雰囲気させます。



美しい月浜海岸

この美しい砂浜や海も津波により、多くの瓦礫に埋もれてしまいました。海岸線の大きながれきは片づけられたものの、砂に埋まる小さなガラス片やゴミなどはなかなか拾いきれません。

「元のきれいな海と浜を取り戻したい」という住民の方々の願いがある中、「本田技研工業が砂浜の清掃活動をしていると聞いたことがある」という月浜の海苔養殖漁師の話をきっかけに、地域復興推進員は同社へ清掃活動招致のための交渉を始めました。しかし、浜を管理している市町村が依頼の窓口となる必要があったため、地域復興推進員はまず市の商工観光課などとの折衝にあたり、その後、市を窓口としつつ同社と粘り強く交渉しました。様々な障害もあって途中で何度か諦めそうになりましたが、住民たちの浜の再生にかける思いを代表して伝え、住民と市役所の間を調整して、関係者の方々のご協力を頂ける事になりました。何よりも住民の方々の海に対する思いと熱意が地域復興推進員

の背中を強く押してくれ、これが実現に結びついた鍵になったのではと思いを新たにしています。

「奥松島体験ネットワーク」による、震災後初めてのワカメ採り体験イベントを実施する3月18日に合わせて実施をお願いしました。

当日は宮城県ホンダ会（県内販売会社 Honda Cars19 社で組織）と株式会社ケーヒンの協力により「Honda ビーチクリーン活動」が実施されました。この作業はサンドバギー（小型車両）のみならず、手作業も必要となり、ホンダ会や東松島市民など多くの方が参加しました。

また、東松島市からも、市長、副市長をはじめ、職員の方々もご参加され、地域が一体となった活動になりました。

ワカメ採り体験イベントの復活とビーチクリーン活動による砂浜の復活が同時に訪れる感慨深い一日になりました。

住民の方々の「安全な浜を取り戻したい」「安全だという事を観光客に伝えたい」という気持ちが実現し、また「頑張れば願いが叶う」という事を実感し地元の方々の復興へのモチベーションの向上に繋がりました。



サンドバギーによる清掃



ビーチクリーン活動

これを契機に、様々な問題に対して住民自らが動いて解決できるように、そして住民主体の復興まちづくりに繋がっていくように、引き続き活動に取り組んでいきます。

重機による海中の瓦礫撤去も行なわれています。もう少し暖かくなれば、地元漁師たちが海に潜って手作業で小さな瓦礫も取り除きます。

再び砂浜が多くの観光客でにぎわう日が楽しみです。



ワカメの初収穫



重機による海中の清掃

【ホンダ ビーチクリーン活動】

<http://www.honda.co.jp/philanthropy/beach/>

【復興まちづくり推進員ブログ】

<http://hmms0311fm.da-te.jp/>

【推進員だよりバックナンバー：JICA東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
